

宇都宮大学 HANDS プロジェクトの試み —外国につながる子どもの教育に関する全県的な取り組み—

若林 秀樹 (宇都宮大学国際学部)

HANDS プロジェクト (以下 HANDS) はこの3月に6年間の区切りを迎える。本発表では、HANDS を初めて知る方ため、事業や刊行物の特徴に字数を割き、成果や課題については後半に総括して述べた。全ての取り組みは、「大学スタッフ」「教育行政」「現場教員」「子ども本人」「保護者」「学生」「一般市民」と、関わる立場によって多様な学びを生んだ。平成28年4月以降、取り組みの一部は学部運営形式で継続する計画である。

1. HANDS について

1.1. 概要

文部科学省特別経費による、外国につながる子どもの教育支援を目的とした、地域連携事業。「グローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献 (多文化共生社会実現に向けた外国人児童生徒教育・グローバル教育の推進)」H22~24 度、「北関東を対象とした外国人児童生徒支援のための地域連携事業」H25~27 度、今年を持ち経費終了。

1.2. 特徴

地域教育行政と学校現場ニーズに直結する諸事業の実施。子どもの教育に関わる人と人をつないで意識とスキルを上げる取り組み、子どもの学習を直接支援する教材作成と提供、保護者に向けた情報発信など、外国につながる子どもの教育の発展に多方面からアプローチを図った。また、外国にルーツを持つ者を含む大学生の活用など、次世代の人材育成にも力を注いだ。

2. 事業の特徴

2.1. 外国人児童生徒教育推進協議会

栃木県教委担当者、県内外国人児童生徒

集住地域(9市1町)教育委員会担当主事、同地域小中学校長代表による組織を運営し、主に小中学校の支援について年3回開催。学校設置者と管理職レベルで、全県的に意識を高め合うことを目的とした。

2.2. 外国人児童生徒支援会議

栃木県内40小中学校に設置されている日本語指導教室担当教員をメンバーとする研究組織。年3回の定例会議の他、常時情報交換が出来る工夫をし、共有した課題や支援スキルを手引き書(3.2)として刊行。

2.3. 多言語による高校進学ガイダンス

栃木県内4会場でHANDSが主催する多言語同時通訳対応の高校進学ガイダンス。各地域の教委が共催者となり、参加家族を募り会場準備等をおこなう。8言語で資料作成し同言語数の同時通訳者も同席。

2.4. 外国人生徒の進路状況調査

支援目標を子ども一人一人のキャリア形成に置き、外国につながる子どもの中学卒業後の進路状況を、各教育委員会の協力のもと全公立中学校を対象に実施し状況を把握。これまで栃木県5回、茨城県と群馬県1回が終了し、現在栃木6回目と群馬2回目の調査中。

2.5. 外国人児童生徒支援のための学生

ボランティア派遣

栃木県内小中学校の外国につながる子ども支援のニーズと、支援を希望する学生をつなぐ事業。留学生の母語力を生かすケースもあるが、多くは入り込み指導による教科学習支援。学生の意欲が子どもの「やる気」を生み出したほか、現場教員が支援について考える機会を効果的に創出した。

2.6 グローバル化と外国人児童生徒教育

将来の教育現場を担う学生や、国際的な視野をもって活躍する学生のための講義(選択、半年もの)。HANDSメンバーを中心とした教員7名によるオムニバス授業で、内容は社会学、日本語教育そして学校現場における対応についてなど多岐にわたる。

2.7. 外国につながる子どもフォーラム

地域に向けた発信を目的に年1回開催、HANDSの報告だけでなく、課題を設定し外部識者を招いての協議や、文部科学省の施策に関する研修などを実施した。また、プロジェクトに関わっている外国につながる学生を活用した討論会も取り入れ、新たな問題提起などもおこなった。

2.8. だいじょうぶ net.

情報発信のためのHPであると同時に、支援に関わる教員の相互交流の場としても活用されている。進学ガイダンスの多言語資料や教科単語帳をDL可能な形式で掲載するほか、一般の閲覧者からの問い合わせコーナーを設け、外国につながる子どもの支援に関する課題解決もおこなっている。

3. 刊行物の特徴

HANDSプロジェクトは、「外国につながる子ども」「支援に関わる教員」「関連する様々な人たち」それぞれを対象に、刊行物を作成し配布発信した。

3.1. 中学教科単語帳

日本語を母語としない子どもが、目標を持って学習に取り組むことを目標に、中学校教科書の学習言語を多言語に翻訳し、学習言語辞典を作成した。タイ語、スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語、中国語、ベトナム語の6言語を刊行し、希望に応じ送料のみ負担で無償配布した。ブラジルやペルーの本国でも活用されている。

3.2. 教員必携シリーズ

学校現場の教員を対象とした、支援のた

めの手引き書。主に日本語指導教室の無い散在地域や学級担任の使用を前提に構成されている。また、外国人児童生徒支援会議(2.2.)の成果を盛り込み、教員ニーズに即した内容を心がけこれまで3刊を刊行した。

3.3. HANDSnext.

HANDSの取り組みを報告するニュースレター。20刊が刊行され全国の関係機関に送付された。学内スタッフの報告以外に、学校現場教員による気づきや、支援に関わった学生の思いを掲載するなど、プロジェクトに巻き込んだ人たちの学びを文字にして共有する意義を持った。

4. 成果と課題

4.1. HANDSの成果

制度を変えるの困難だが、「人」を変えるのは更に困難である。HANDSの特徴は「人と人がつながり変えていく」を目標にしたことだ。学校設置者や管理職そして教員をHANDSでつなぎ、顔が見える協議を続けたことで、栃木県内における意識は高まった。支援の目標は学力の定着であるという認識も県内学校現場に定着しつつある。

4.2. HANDSの課題

最大の課題は、文科省予算終了後の対策が不十分な事である。教育行政や管理職の新たな気づきは、まだ大学等外部機関の支援を必要とする。今後は本来取り組むべき人たちに如何にバトンを渡すか、継続した取り組みが必要である。また、HANDSモデルを、茨城や群馬のみならず全国的に波及させる工夫が不足したと感じている。

【参考サイト】

「だいじょうぶ net.」
各事業や刊行物及び
行事資料等が閲覧可。



(画像1)

<http://www.djb.utsunomiya-u.ac.jp/>